

～ 子どもを伸ばす “学力向上3つの秘策” ～

西部教育事務所 管理主監 上原 永次

平成26年度も残りあとわずかとなってまいりました。今年度、管内の多くの学校を訪問し、管理職の方から話を聞いたり授業を参観したりしました。各学校で経営の重点として学力向上に取り組み、先生方がとても熱心に、しかも工夫して子どもたちの指導に当たっていることがよくわかりました。

昨年11月には、秋田県のある小学校で行われた授業研究会に参加しました。全県で課題解決型授業スタイルを基に指導の工夫改善が図られ「課題→自力解決→学び合い→まとめ→振り返り」など、子どもが主体となった授業が徹底して行われていました。どの授業も統一感があり、子どもたちがよく考え、課題解決に真剣に取り組んでいました。学習規律や話合いの仕方がしっかり身に付いており、意見交換がテンポよく行われ、教師は余計な指示など一切言わずに済んでいます。発言を生かした構造的な板書とノートのまとめ方の指導は見事でした。子どもたちが自ら「活用力やコミュニケーション力」を伸ばしている姿を見て感心しました。

この研究会に参加して、見えてきた学力向上の具体的な取組を“3つの秘策”としてまとめてみました。自校の現状を振り返り、新たな課題解決に向けて役立てていただきたいと考えています。

＜秘策1＞ 組織を生かし全校体制で実践 …… 学校が一つになる

学力向上委員会または学力向上コーディネーターが中心となり、学校全体で「どのような授業をつかっていくのか、すべての授業で約束として実践することは何か」など授業づくりのポイントを決め、徹底して行っていくことが重要です。学力向上コーディネーターが一人だけで考えて実践しても成果は出ません。全職員が同じ意識で同じ考えの下、同じことを実行し、授業の質を高めていくことが大切です。

そして管理職と学力向上コーディネーターはどのように実践されているかを確認し、指導に当たります。つまり、全校体制で動くということです。この学級で行われている、あの学級では行われていないでは学校全体としての成果は期待できません。



具体的には「学習課題の提示方法」「学習用具の準備」「ノートのまとめ方」「思考力や表現力を高める学び合いの方法」など、すべての学年・学級で統一して計画的に指導し、効果的で効率的な学習を毎年継続して積み上げていくことが重要であると考えます。

＜秘策2＞ 課題解決型の授業づくり …… 授業を変える

子どもが主体となった授業へと改善していくためには、やはり課題解決的な学習を進めていくことが大切であると思います。多くの先生方がめあてや振り返りを意識して授業を行っていますが、それだけではなく「問題を提示して課題づくりを行う」「まず自分の力でいろいろな方法を考えて課題に挑戦する」「みんなで考えを出し合い、よりよい解決方法を探る」「発問を工夫し考えをゆさぶる」「ペアやグループなど学習形態を工夫する」など子どもの思考を深める授業にすることが大切です。

さらに「子どもたちの考えを基にまとめをする」「キーワードを用いて1時間の振り返りをする」などして定着を図ってほしいと思います。



＜秘策3＞ 家庭との連携を強化 …… 学力を磨く

家庭学習については、マニュアル等を作成して学習の仕方を指導している学校も多いと思いますが、一番大切なことは家庭での生活習慣や学習習慣を安定化させることであると思います。

発達段階により異なりますが、例えば「7時間の睡眠をしっかりと確保し、2時間の家庭学習を行う」「登校の1時間前に起床し、しっかりと朝食をとる」など、規則正しい生活を家庭で送ることが非常に大切です。また、保護者が一緒に読書したり、練習問題の丸つけをしたりするなど、家庭学習に関心をもち、かかわっていくことも学力の定着に大きな役割を果たします。

これらのことを参考に、学校全体で子どもたちの学びの質を高め、学力向上を図っていく取組が進められることを心から期待しています。